

2-2岩井(八千代の代表勝ち)、土浦日大4-1石岡、つくば秀英4-0下館工、水戸工4-1総和、水戸葵陵3-1明野、磯原郷英5-0日立工

▽準々決勝 水戸啓明5-0牛久、八千代2-1土浦日大、つくば秀英4-0水戸工、磯原郷英4-0水戸葵陵

▽準決勝 水戸啓明5-0八千代、つくば秀英3-0磯原郷英

▽3位決定戦 磯原郷英 4-1 八千代

▽決勝 水戸啓明 4-0 つくば秀英

### 柔道団体

女子

# 土浦日大V水戸啓明 男子



〈柔道女子団体決勝〉土浦日大―水戸葵陵 土浦日大の先鋒・飯田が横四方固めで一本を奪う―県武道館



柔道女子団体は土浦日大が女王の貴塚を示し、水戸葵陵を2-0で退けて3連覇を果たした。決勝は先鋒を務めた主将の飯田蒼生(3年)が一本勝ちしてチームに流れをもたらした。「必ず優勝しなければと思っていて」と飯田。団体メンバー唯一の3年生だけに、まず自分が決めようという強い覚悟で臨んだ。プレッシャーはあったというが、冷静さを失わなかった。相手の隙を見逃さずに内股を仕掛ける。「しっかりと一本取ろうと思った」と、相手が崩れたところで関節を取りながらの横四方固めで白星を挙げた。

続く畠石香花(1年)

## 流れ呼んだ主将の一本

は先輩がつくった流れを「自分も次につなごう」と積極果敢に攻めた。立ち技から相手が倒れたところを抑え込んで技あり。さらにそこで釣り込み腰を仕掛け、合わせ技となって勝負を決めた。

大将の大塚真由(2年)は引き分けに終わったが、チームは準決勝までの3戦を3-0で勝ち上がり、安定した強さを見せつけた。飯田は毅然とした表情で「県大会は通過点」と言い切った一方で「正直ほっとした」と笑顔ものをかせた。

昨年のインターハイは初戦敗退し、悔しい思いをした。飯田は「全国で戦えるメンバーがそろっている。一つでも上を狙って4強以上を目指したい」と飛躍を誓った。

(杉野碧)



〈柔道男子団体決勝〉水戸啓明―つくば秀英 水戸啓明の次鋒・石塚が出足払いで技ありを奪う―県武道館

## オーダー変更奏功、一気攻勢

〇…水戸啓明の牙城は今年も揺るがなかった。準決勝まで5人全勝で勝ち上がり、6連覇が懸かった決勝も4-0で圧勝した。

決勝の相手は過去に何度も対決してきたつくば秀英。「前半2人の勝敗が試合を左右する」と読んだ川又千里監督(52)は、今大会オーダーを変更して先鋒に長山和寿(3年)、次鋒に石塚康太郎(同)を送り込んだ。

長山は「急いで仕掛けず、決めるタイミングを狙っていた」。相手の投げ技を裏投げて返して有効を取り、優勢勝ちを取めた。石塚は積極的に攻め、有効と技ありを奪って勝利。普段は団体戦の後半で登場する2人の活躍が勢いをもたらした。

大将戦を一本勝ちで締めくくった主将の樫村将伍(3年)は、「しっかりと試合ができた」と胸を張る。集大成となるインターハイに向けて石塚は「まだベスト8に入ったことがない。しっかりと上を狙っていきたい」と話した。